

2. 口腔ケアの質の向上を目指して

～当院看護師に行った口腔ケアアンケート結果とその後の取り組み～

加古川中央市民病院 口腔管理室 石野 亜希子 田村 昌代 幸田 直子
杉浦 啓子 浜西 千晴 太田 英梨
中島 成美 中谷 修平

【要旨】

口腔ケアは歯科領域だけでなく、医療、介護、看護の領域でも一般的に行っており、口腔内を清潔に保ち、口腔機能を維持回復することは「食べる楽しみ」を支援し、患者の QOL 向上につながる。また口腔内細菌は、誤嚥性肺炎や人工呼吸器関連肺炎（VAP）、感染性心内膜炎、敗血症等との関連が指摘されており、合併症の発症が主科の治療計画にも大きく影響する。当院の歯科衛生士が行った口腔ケア件数は、2016 年度 1902 件から 2017 年度 3231 件と大幅に増え、今後も増加が予想される。現在、周術期口腔機能管理や入院患者の口腔ケアを行っているが、多くの入院患者の口腔ケアは通常看護師が行っており、病棟看護師の口腔ケアに対する意識と実態調査を行い、その結果をふまえて歯科衛生士が取り組んだ内容を報告する。

【目的】

当院は歯科衛生士が勤務していた加古川東市民病院と、勤務していない加古川西市民病院が統合し、2016 年 7 月に新築稼働した。開院して 2 年が経ち、現在の病棟看護師全体の口腔ケアに対する意識と実態を把握し、現状、要望を明確にするためのアンケート調査を行った。調査結果を検討した上で、われわれ歯科衛生士が今後予定している口腔ケア研修会の内容を決定し、看護師の口腔ケア知識・技術の向上と、それに伴う患者の QOL 向上・合併症予防に貢献したいと考え、今回の取り組みを行った。

【方法】

口腔ケア業務に従事している 7・8・9・10 階病棟・ICU ①・ICU②・HCU で、2018 年 9 月 10 日（月）から 9 月 14 日（金）の平日日勤勤務の看護師 95 名に対し、口腔ケアの知識・技術・現状等についての 15 問の無記名選択式の質問用紙を用いて実施する事とした。そのため、事前に看護部長、看護副部長、各病棟看護師長へ連絡を行った。了承が得られたため、対象者には調

査の趣旨を記載した説明文の確認後、記入を依頼した。記入後の回答用紙は各病棟で封筒に入れて保管し、9 月 17 日（月）に口腔管理室が回収を行った。

【倫理的配慮】

本研究は当院倫理委員会の承認を得て行った。（承認番号：30-14）対象者への説明文には、「個人を特定しない」「協力の可否で不利益にならない」「今後は学術発表会や関連学会で発表する可能性がある」との内容を記載し、アンケートの提出により調査に同意する事とした。

【結果】

回答数は 93 名、回収率は 98%であった。実務年数は 1～5 年が 30 名、6～10 年が 22 名、11～15 年が 22 名、16～20 年が 7 名、21～25 年が 4 名、26 年以上が 4 名、無記入が 4 名であった。

1. 清潔ケアの認識について

清潔ケアの中で最も優先しているのは「陰部洗浄」が 53%と最も多く、次に「口腔ケア」が 24%という結果であった。その理由は 80%が「感染予防」という回答であった。（図 1）

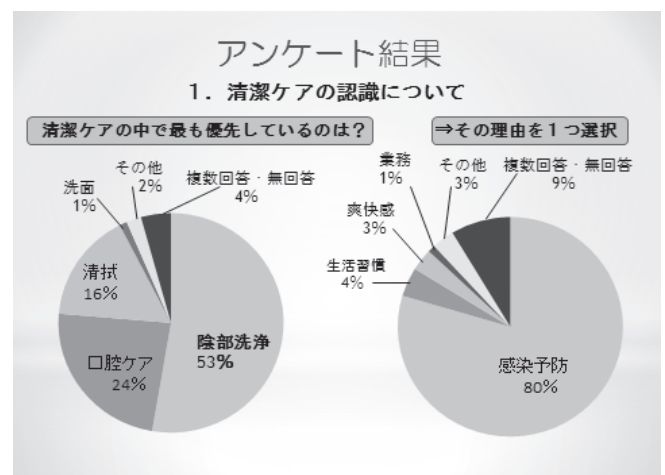


図 1：清潔ケアの認識

2. 口腔ケアの認識について

口腔ケアの必要性は 100%が感じると回答しており、非常に高い結果であった。その理由は 88%が「感染予防」という回答であった。(図 2)

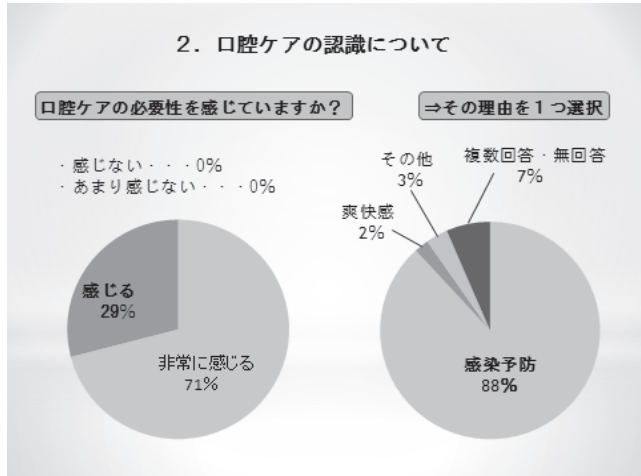


図 2：口腔ケアの必要性

口腔ケアの認識は 65%が出来ていると回答したものの、口腔ケアについて十分理解できているかは不安があると回答した者も多かった。(図 3)

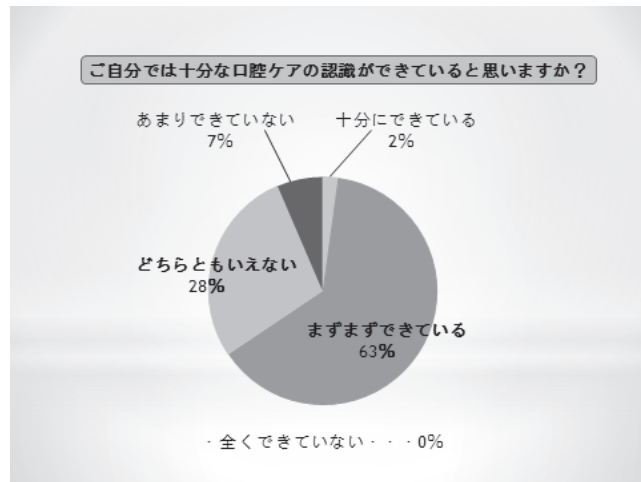


図 3：口腔ケアの認識

3. 口腔内の観察について

口腔内の観察は 77%が口腔ケアの際に行っていると回答し、観察部位は「舌」、「唾液や痰」、「歯や歯肉」、「口唇」の順に多かった。(図 4)

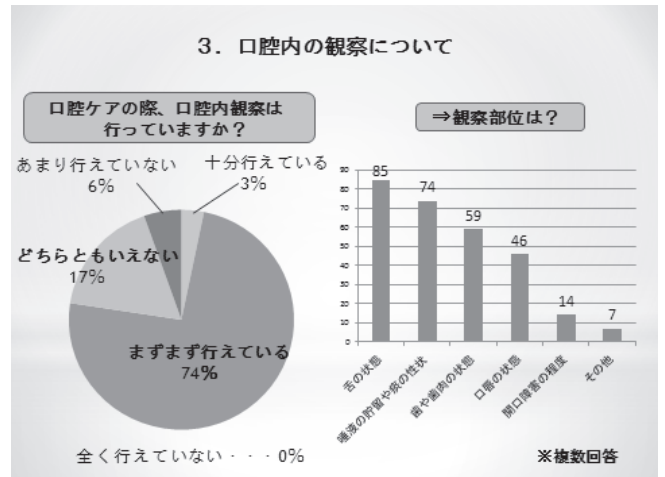


図 4：口腔内の観察

また口腔ケアの知識は「唾液の役割」「嚥下障害の時は頭部を前屈する」「不顕性誤嚥」が多かった。(図 5)

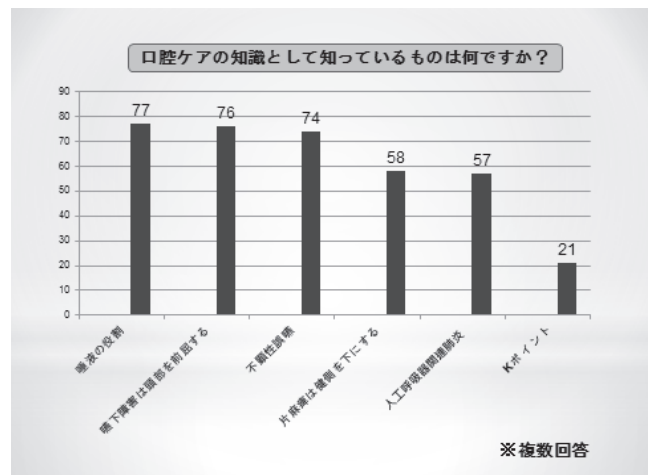


図 5：口腔ケアの知識

4. 口腔ケアの実行力について

口腔ケアの実行力は 1日 3回行っている者が 78%であり、行えていない者のうち 75%が「業務が忙しく時間がない」との回答であった。(図 6)

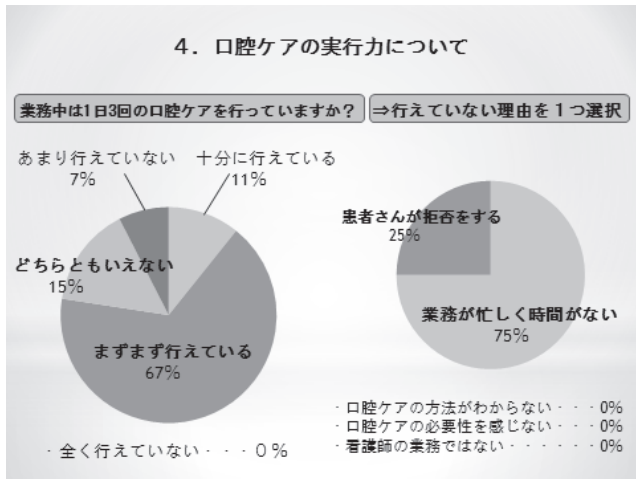


図6：口腔ケアの実行力

また心配になった時は「他の看護師に聞く」が最も多く、次に「歯科衛生士に聞く」「ネットで調べる」「本で調べる」「医師に聞く」の順で多かった。(図7)

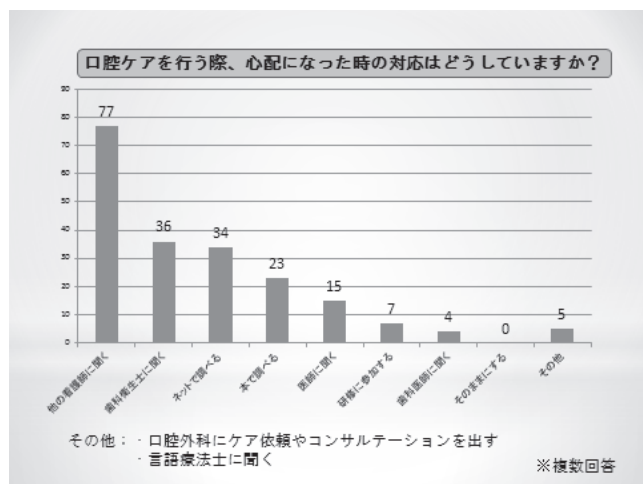


図7：心配になった時の対応

5.他部門との関わりについて

口腔ケアを行うのが望ましい者は「歯科衛生士」が57%と最も多く、次に「看護師」、「本人」の順となっていた。37%が何らかの口腔ケア研修会に参加した事があり、院内で研修会があれば88%が参加したいと回答した。(図8)

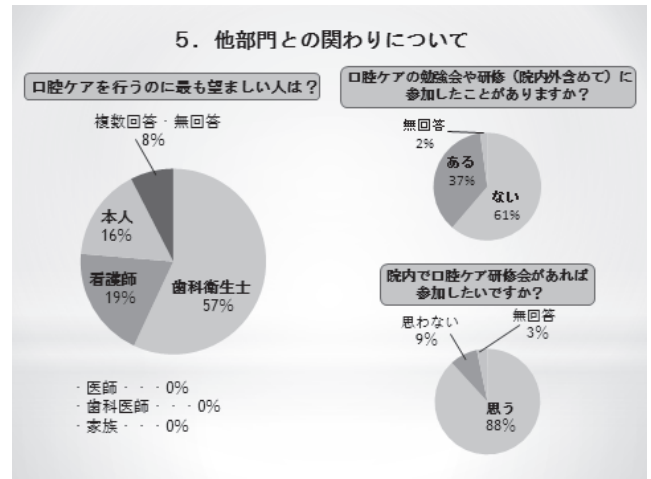


図8：他部門との関わり

また希望する口腔ケア研修会の内容は「ケアの方法」が最も多く、次に「含嗽剤・保湿剤の選び方」、「口腔内観察方法」、「口腔アセスメント」等の順であった。(図9)

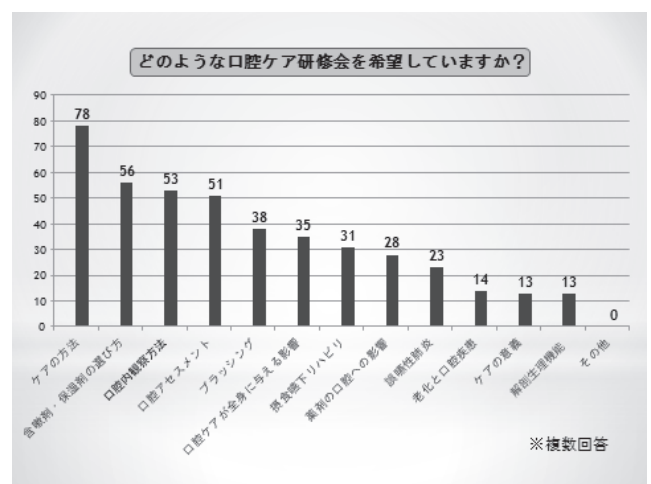


図9：希望する口腔ケア研修会内容

6.対策と取り組み

これらの結果をふまえ、病棟看護師の口腔ケア知識・技術向上のため、口腔ケア研修会の内容は、特に希望の多かった「口腔ケアの方法」「口腔ケア用品の種類」「保湿剤の使用法」等とし、後日歯科衛生士主催の口腔ケア研修会を開催した。(写真1)

口腔ケア研修会の様子



写真 1：口腔ケア研修会の様子

研修会には 21 名の看護師と 1 名の医師の参加があったが、勤務の都合上参加できなかった看護師もいた。研修会後のアンケートでは、「わかりやすかった」「歯磨きと保湿を心掛けたい」「歯科衛生士が使うケア用品を病棟でも使いたい」との意見があった。

【結論】

今回のアンケート調査の結果、病棟看護師の 100%が口腔ケアの必要性を感じている事、78%が 1 日 3 回の口腔ケアを実行している事、心配になった時はそのままにせず必ず何らかの対応をしている事、院内で口腔ケア研修会があれば 88%が参加したいと思っている事等をふまえ、当院病棟看護師の口腔ケアに対する意識は大変高く、知識・技術の習得に積極的である事がわかった。

【考察】

今後も継続して看護師の要望に沿ったテーマを中心に、口腔ケア研修会の開催が必要である。また課題として、①看護師新人研修の中で口腔ケアの重要性やケア方法を説明する事、②歯科衛生士と看護師が統一したアセスメントを行えるシステム作りをする事、③各病棟特有の疾患や各個人に対する具体的な口腔ケア方法を看護師と共有できるようにする事等を検討していきたいと考える。

【参考文献】

- 1) 沖本 絵里子, 伊藤 文美：当院看護師における口腔ケアの現状：臨床看護研究収録, 2012

- 2) 氏家 良人, 行岡 秀和, 米山 武義：口腔ケア・スタンダードの必要性, 根拠に基づく口腔ケア, 全身的健康と口腔ケア：最新 口腔ケア エビデンスに基づくスタンダード技術 (照林社編集部)：第 1 版, (株)照林社, 東京都, 2001, 18-34
- 3) 岸本 裕充：口腔ケアの技術とトラブル対応, 全身状態と口腔ケア：成果の上がる口腔ケア：第 1 版, (株)医学書院, 東京都, 2011, 34-68, 82-92

【Keyword】

口腔ケア 看護師